

研究所だより

第320号
2012年5月7日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<あすなる教室の卒業生>

この春、義務教育を無事修了した3名の通室生。清水高校定時制に進学したA君、B君、大方高校に進学したCさん。それぞれに自分の目指した進路先に行くことができました。

通室中には、泥谷先生の献身的な取り組みが見られました。生徒の自主性を保障し、心の変化に寄り添った支援がありました。学校、家庭との連携も積極的に行われてきました。「あすなる教室」が子どもたちの心の居場所となり、保護者も再三に渡り足を運んできてくれることになりました。

今年、6名の子どもたちが清水高校の定時制に入学しました。武内校長、岡田教頭をはじめとして、定時制の先生方には大変お世話になっています。

3月末には、山中・森下両先生、4月5日には、山崎・山中両先生がセンターを訪れ、子どもたちの様子や子どもたちへの接し方など、泥谷先生と情報交換の場を設けることができました。授業参観にも来てくださるとの言葉もいただきました。子どもたちに寄り添っていこうとする先生方の姿勢を垣間見ることができ、嬉しく思ったことでした。また、26日には岡田教頭が訪れ、子どもたちの近況を話してくれました。まだ1日も休むことがなく、楽しい学校生活を送っているとのこと。彼らには新しい居場所ができたようです。受け入れ側の積極的な姿勢が子どもの変容を促してくれます。

岡田教頭がおいでしてくれたときにちょうど4名の子どもたちが来ていました。わざわざ教室に足を運び声を掛けてくれました。子どもたちも少し戸惑ったようでしたが、高校の先生が教室を覗いてくれるということが子どもたちにも親近感を与えたことでしょうか、学校以外の子どもの姿を見てくださることに温かな配慮が感じられ、とても嬉しく思いました。

この教室が高校側との連携を深める役割の一端を担っているのではないかと感じたことでした。6月の参観日には私たちも参加しようと思っています。

また、保護者の方も子どもたちが卒業後、センターを訪れてくれます。(必ず、手作りの美味しい食べ物の差し入れがあります。ありがたいことです。)27日にはCさんのお母さんが訪れ嬉しそうに子どもの近況を語ってくれました。Cさんもまた1日も休んだことなく、友だちもでき、しかも部活動に入って頑張っているようです。

あすなる教室を巣立った子どもたちは今も再三に渡ってセンターを訪れてくれます。賑やかな声、笑い声が響いてきます。近況を語りながらその端々には敬語が混じります。立派に成長していく姿を見せてくれます。先達では、漢字のテストがあるとかで勉強もしていました。今も、彼らには「あすなる教室」は心の安らぐ居場所となっています。

<SSW・兼松和典 先生着任>

この1日より土佐清水市のSSW(スクールソーシャルワーカー)として勤務することになりました。児童生徒の様々な問題に対して学校や行政、家庭との連携に微力ながら支援ができればと思います。学校の方にも訪問させていただきますので宜しくお願い致します。

<教育研究所・研究協力校>

この1年間、校内研修のテーマとは別のテーマ設定で研究をしていただきます。研究協力校には不破・田中両名の研究員が校内研への参加や授業参観等に行かせてもらいます。また、色々な形で支援、協力をしていきます。

<足摺岬中学校>

研究主任 前田 福水

◎研究テーマ

将来的に幸せになるための基礎をつくる
～伝説の学校として残るために～

◎研究の概要

- ・将来どのような生き方をしたいのかをキャリア教育の中で考える
- ・「夢」や「志」について考えることから、今すべきこととして『学ぶ意欲の向上』を喚起する
- ・離れたところから故郷や自分を振り返ることにより、将来への展望を明らかにしようとする心を養う
- ・「知行合一」を実践へと結びつける実践に取り組む

◎その他

学校とは、生徒だけが学ぶところではなく「教師」「保護者」「地域」にとっても学びの場となり得ることから、「教師の成長」が「生徒成長」へと繋がり、保護者が変わる、地域が変わる、社会が変わることを信じ、「自らの成長に取り組む」実践を行います

<三崎小学校>

研究主任 奥谷 木の実

◎研究テーマ

楽しい学校
～人間性豊かな子どもの育成～

◎研究の概要

- 豊かな体験活動として
 - ・ふれあい体験活動・・・歓迎・お別れ遠足 なかよし班活動 等
 - ・自然体験活動・・・餅米作り 野菜作り 野外活動 環境学習プログラム 花作り 等
 - ・文化芸術体験活動・・・作品展 統計グラフ 紙の工作 学習発表会 等
 - ・集団宿泊的活動・・・全校レク 宿泊研修 修学旅行

<中浜小学校>

研究主任 宮地 和子

◎研究テーマ

「構成的グループエンカウンターを活用した仲間作り」

◎研究の概要

- 1, 講師による構成的グループエンカウンターの授業を元に理論と技術を学ぶ
- 2, 各学級担任による構成的グループエンカウンターの授業を検討し、児童の仲間作りを進める
- 3, Q-Uの結果を分析し、手立てを考える
- 4, Q-Uと構成的グループエンカウンターの授業の関係を考察しながら経年変化を調べる

◎その他

年間を通して、講師(教育研究所・田中聡子先生)と共同研究していく